

重要文化財 我妻家住宅主屋ほか5棟 保存修理（災害復旧）工事 及び

重要文化財 我妻家住宅主屋ほか3棟 保存修理工事



主屋 修理前



主屋 竣工

1. 建造物概要

名称 我妻家住宅

所在地 宮城県刈田郡蔵王町大字曲竹字薬師前4番地

工事対象

「重要文化財我妻家住宅主屋ほか5棟保存修理（災害復旧）工事」 → 略称（主屋ほか5棟）

「重要文化財我妻家住宅主屋ほか3棟保存修理工事」 → 略称（主屋ほか3棟）

（主屋ほか5棟） 主屋・文庫蔵・前蔵・板蔵・附穀蔵・附表門

（主屋ほか3棟） 主屋・文庫蔵・前蔵・板蔵

2. 構造形式

【主屋】 ※宝暦三年（1753）建立

桁行 26.329m、梁間 11.817m、西面突出部 桁行 10.029m、梁間 6.393m、寄棟造、北面突出部桁行 2.424m、梁間 4.696m、切妻造、東面下屋付属、茅葺

【文庫蔵】 ※宝暦三年（1753）頃 建立

土蔵蔵、桁行 9.1m、梁間 5.5m、二階建、切妻造、鉄板葺

【前蔵】 ※文化七年（1810）古蔵を移築して建立

土蔵造、桁行 9.198m、梁間 4.522m、切妻造、板葺

【板蔵】 ※文化二年（1805 建立）※初蔵（もみぐら）として利用

桁行 5.454m、梁間 2.727m、切妻、板葺

【附穀蔵】 ※文政二年（1819）より以前に建立

土蔵造、桁行 9.090m、梁間 4.545m、切妻造、鉄板葺

【附表門】 ※19世紀半ば頃建立

腕木門、板葺

3. 事業期間 （主屋ほか5棟） 令和3年11月1日 ～ 令和7年6月30日（事業期間44ヶ月）

（主屋ほか3棟） 令和4年11月1日 ～ 令和7年7月31日（事業期間33カ月）

4. 事業費 （主屋ほか5棟） 93,980,000円

（主屋ほか3棟） 159,380,000円

4.修理の経緯と修理方針

令和3年2月13日に発生した福島県沖地震(蔵王町震度6強)により、各建造物に大きな被害が生じた。これを受けて「主屋ほか5棟」の保存修理(災害復旧)工事を開始したが、その最中(令和4年3月16日)に、二度目の福島県沖地震(蔵王町震度6強)を受け、さらに被害は拡大した。この他に経年劣化による屋根葺き替え工事と主屋の耐震診断を行う「主屋ほか3棟」の保存修理事業を、令和4年度より開始した。

前 蔵 (まえくら)
 (主屋ほか5棟)
 地震で被災した壁の塗り直し
 (主屋ほか3棟)
 屋根の葺き替え



附穀蔵 (つげたり こくくら)
 (主屋ほか5棟)
 地震で被災した壁の塗り直し



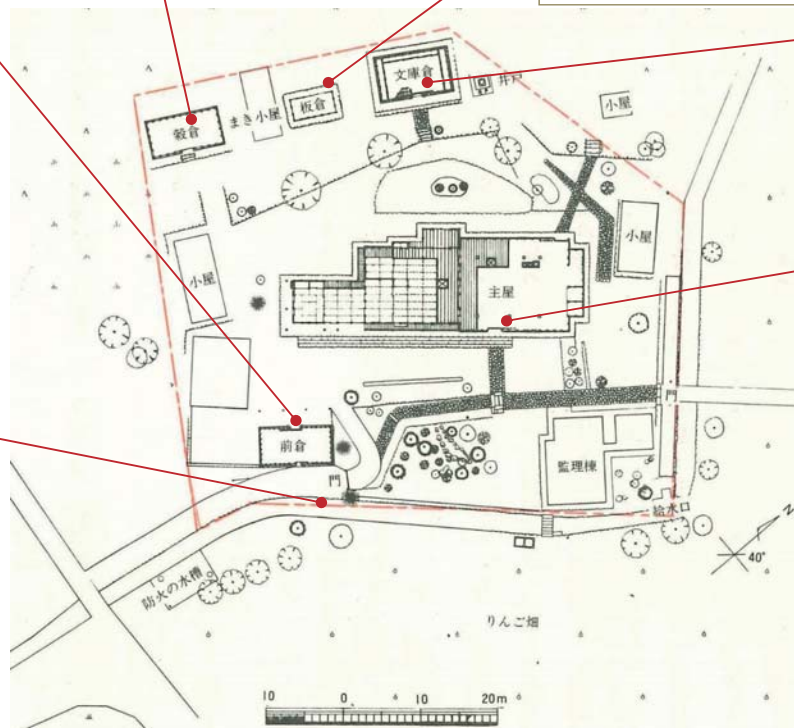
板 蔵 (いたくら)
 (主屋ほか5棟)
 地震で被災した壁板のズレ補修
 (主屋ほか3棟)
 屋根の葺き替え



文庫蔵 (ぶんこくら)
 (主屋ほか5棟)
 地震で被災した壁の塗り直し、柱の
 建て起こし
 (主屋ほか3棟)
 1階の床板や床組みの修理



附表門 (つげたり おもてもん)
 (主屋ほか5棟)
 柱の建て起こしと柱根継修理



主 屋 (おもや)
 (主屋ほか5棟)
 地震で被災した壁の塗り直し
 (主屋ほか3棟)
 屋根の葺き替え、柱建て起こし、建具補修、畳補修、耐震診
 断(+構造補強)



※宅地 3,624.59 平方メートル、四番地右の地域周囲の石垣及び裏庭の石垣含む

重要文化財我妻家住宅主屋ほか5棟保存修理（災害復旧）工事
重要文化財我妻家住宅主屋ほか3棟保存修理工事



1 主屋正側面（南東）全景

差し茅補修はしているものの、全体的に凹凸が目立つようになってきている。



2 主屋土間境土壁破損

令和3年の福島県沖地震により、土壁に亀裂が生じた。



3 主屋建具破損状況

令和4年3月16日福島県沖により建具に歪みが生じた。

重要文化財我妻家住宅主屋ほか5棟保存修理（災害復旧）工事
重要文化財我妻家住宅主屋ほか3棟保存修理工事



4 茅葺屋根の葺替え作業

古い茅を全て降ろし、新しい茅で葺替えた。



5 主屋土壁の補修

地震により生じたひび割れの程度に応じて塗り直した。下地の荒壁から付直した部分もあれば、ひび割れ箇所のみを補修したところもある。最終仕上げには全面的に中塗りを塗って仕上げた。



6 耐震補強工事

耐震診断の結果、我妻家住宅主屋は、「安全確保水準」を満たす構造的強度を持っていることが判明したものの、度重なる地震のダメージにより接合部（ホゾなど）に破損が生じていた。
今回の修理では、接合部の補強をするため、金物を新たに設置して建物の強度を維持した。



7 文庫蔵 地震被害

令和3年の地震で、漆喰壁が崩落した。



8 文庫蔵床組破損状況

大引が腐朽し、下半分が脱落していた。大引の材種は水に強いクリであるものの、湿気により腐朽が進行していた。根太はスギ丸太半割材で、大引きと同程度の破損である。

大引（おおびき）

根太（ねだ）



9 文庫蔵 壁修理

壁の破損状況を観察すると、下地の荒壁土にも多くのひび割れが生じていたため、荒壁土まで解体してから塗り直した。



10 文庫蔵 荒壁付け

粘土質の土に藁スサと水を入れて練りある程度腐らせる（藁を繊維状にするため）。その後、竹に密着するように団子状にした土を押し付け、室内側からも返し塗りをする。写真は、乾燥中の様子。ぶら下がっているのは、藁縄で、次の斑直し塗りの際に、伏せ込む。



11 文庫蔵 鉢巻漆喰塗り補修

壁面と屋根の境部分に付ける出っ張り部分を鉢巻と呼ぶが、この部分は保存して亀裂部の補修を行った。最終仕上げには、漆喰を薄くしたノロを掛けて仕上げた。



12 文庫蔵 床組み補修

湿気が昇る床下の土間を一旦掘り、防湿シートを敷きこんだ上に土間を復旧した。腐朽した大引・根太は取り替えたが、大引きの1本だけは強度がある部材があったので、再用了。



13 前蔵 地震被害

令和3年の地震で、漆喰壁が崩落した。



14 前蔵 屋根破損状況

全面的に苔が繁茂していて、平葺板の劣化も進んでいた。



15 前蔵 壁修理

壁の破損状況を観察すると、下地の荒壁土は保存できると判断した。ただ、そのままでは弱いため土壁の強化剤を表面から塗布し、荒壁土がポロポロと剥離するのを防いだ。亀裂には、新たな荒壁土を塗り込み、斑直しの時に伏せる下げ縄を取り付けた（小舞を避けて壁に穴を開けて、小舞に縄を絡めて外側に出している）。



16 前蔵 斑直し

斑直しの工程を数回繰り返した。前述の下げ縄を伏せ込んだ後、次の塗り重ね工程「付送り」では、壁上端に竹釘を打ち、そこにシュロ縄を引掛けて縦に垂れ下げた。これを塗籠めた後、次に横方向にもシュロ縄を伏せ込んだ。



17 前蔵 漆喰塗り完了

壁面と屋根の境部分に付ける出っ張り部分を鉢巻と呼ぶが、この部分は保存して亀裂部の補修を行った。最終仕上げには、漆喰を薄くしたノロを掛けて仕上げた。



18 前蔵 屋根とち葺

修理前の仕様に倣い、クリの木を手作業で割って桎目板に加工した板を屋根に葺いた。板の巾は10cm以上、厚みは0.9cm、長さ24cm。7.5cmずつずらして重ね、1枚ごとに竹釘で打ち止めている。

重要文化財我妻家住宅主屋ほか5棟保存修理（災害復旧）工事
重要文化財我妻家住宅主屋ほか3棟保存修理工事



19 板蔵 屋根の破損状況

屋敷林（杉）の落葉が堆積して腐葉土化が進行していた。



20 板蔵 屋根葺替え

一旦全ての屋根板を解体し、野地を補修して葺替えた。
前蔵と同様に屋根はクリ材のとち葺であるが、屋根の勾配（傾き）が緩いため、板の長さを48cmにして、葺き足を12cmにしている（修理前の仕様に倣った）。



21 板蔵 地震被害の補修

地震により壁板に隙間が生じる箇所があったが、横羽目板を上詰めて、楔を取り替えた。

重要文化財我妻家住宅主屋ほか5棟保存修理（災害復旧）工事
重要文化財我妻家住宅主屋ほか3棟保存修理工事



22 表門 地震被害

令和3年の地震により、門が背面側へ傾斜した。主柱の位置が礎石からずれており、控柱の根元の腐朽も一因として考えられた。



23 表門 柱位置修正

背面側からジャッキで柱を建て起こし、正規の位置に戻した。



24 表門

控柱補修・塀補修
建て起こすために、一旦解体した塀を復旧した。控柱は根継ぎ補修した。

重要文化財我妻家住宅主屋ほか5棟保存修理（災害復旧）工事
重要文化財我妻家住宅主屋ほか3棟保存修理工事

重要文化財我妻家住宅主屋ほか5棟保存修理（災害復旧）工事
重要文化財我妻家住宅主屋ほか3棟保存修理工事



25 穀蔵 地震被害

令和3年の地震で、漆喰壁が崩落した。



28 穀蔵 内部下げ縄

外側と同様に、内側にもシュロ縄を下げた。縄の位置は、小舞の場所を見計らって穴を開けている。



26 穀蔵 内部壁破損状況

壁貫に沿って亀裂が生じていた。



29 穀蔵 斑直し完了

下げ縄を伏せた後、前蔵と同様に付送りを行った。



27 穀蔵 壁修理

前蔵と同様に荒壁強化剤を塗布した後、ひび割れ箇所を埋めた。その後、既存の藁縄の他に、シュロ縄も追加した。



30 穀蔵 中塗り

左官の仕上げは中塗りで、腰壁は古材を復旧した。